

# 住む町 働く町 楽しむ町——日立市

日立市庶務課統計係

汽車の窓から市街地を眺めると、大小の工場があちらこちらに立ち並んでいる。市街地が海と山のせまい間を南北に帯状に延びて発展している。住宅地の不足と値上りのため、山を削り中腹近くまで宅地化し、多数の住宅団地が形成されており、また、アパートや一般住宅が海岸近くまで建てられている。

初夏には、山々の緑が美しく映え、ともすると殺風景となりがちな市街地を柔らかに包み、工業の街日立市を生き返らせる。

朝夕、市内の常磐線の各駅は、出通勤の人や学生で大変な混雑を呈する。市内には、大企業の日立製作所、日立電線工場、日立鉱業所をはじめ900を越す大小の工場があり、通勤者の6割近くはこれらの工場で働いている。

近年、工場で働く人達の通勤服が著しく変わり、とくに女性の服装はレジャーにでも出掛けのようなものを身にまとっているようで明るくカラフルである。これも生活様式に対する年代感覚の違いや生活が豊かになってきた証拠であろう。

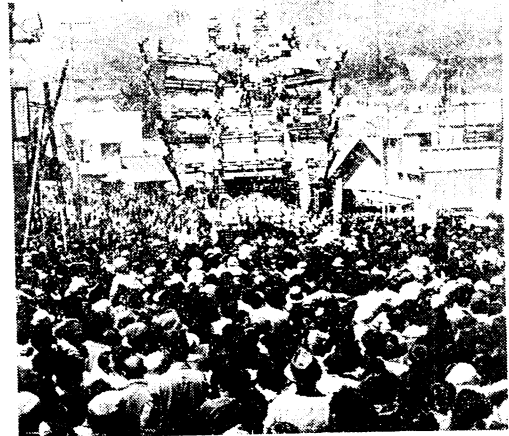
本市は、大きな工場などがあるため、市外、県外から働きにくる者が多く、若い人達はやがて世帯を持ち定住するという傾向が顕著で、この人達が、本市の人口を構成していると言っても過言ではない。

最近では、自分たちのまちは自分たちの手で作るという市民意識が定着しつつあり「住むまち、働くまち、楽しむまち」実現のための市民運動が展開されている。

工業のまちといわれた日立市も、工場などの働く場所ばかりでなく、19万市民の心を楽しませてくれる遊戯施設の自然公園などが市内にたくさんある。若い人達のつかのまのひとときを、すこす喫茶店が約100店あり、また明日の仕事のエネルギーを提供してくれる酒場、キャバレーは約300店近くある。その外の施設としてボーリング場が7カ所、パチンコ17店がある。また、本市は海、山の自然の美に恵まれ南部の久慈町には日立港があり、1万トン級の船が出入りしている。北部の小木津、豊浦町の海岸線は雄大な天然美の海蝕崖と、きらめく白砂に緑の松が織りなし、みごとな自然美を展開し、海水浴に、キャンプに、潮干狩などに、にぎわっている。また、高鈴山ハイキングコースがあり、初夏の若葉、秋の紅葉の季節には沢山のハイカーでにぎわいをみせる。

### 【おもな観光施設と行事】

行事名	場所	期日
○正月まつり	かみね公園	元旦～7日
○桜まつり	かみね公園	4月初旬～中旬
○日立まつり	市内一円	5月3日～5日



〔日立風流物〕

- あんどんまつり かみね公園 7月下旬～8月中旬
- 海上花火大会 河原子海岸 8月第1土曜日
- ハイキング大会 高鈴山、神峯山 10月10日
- 日立菊花展 多賀公民館 10月中旬～11月初旬
- 動物園まつり かみね公園 11月上旬

### ○神峯公園

頂上から、海と山と市街が一望に見渡せる自然公園である。公園には、動物園や観覧車、子供電車などの遊戯施設と800本の桜の木が全山を覆っており、4月には美しく咲きほこる。毎年、市外や県外からの沢山の観光客が訪れる。

### ○小木津山自然公園

広大な自然公園で春、秋には、わらび、きのこ狩を楽しみながら家族ずれのハイカーが訪れたり、野鳥の観察の集いなどが行なわれ、市民の憩いの場となって

第1表 人口の推移

年次	世帯		総数	人口	
	戸	人		男	女
昭44年	45,448	188,625	95,143	93,482	
45	50,973	193,210	97,458	95,752	
46	52,639	195,791	99,290	97,501	
47	52,366	197,252	99,052	98,200	
48(4月)	52,055	197,679	99,022	98,657	

いる。

### ○池の川運動公園

市民の運動公園である。野球場、テニスコート、バレーコートなどが完備され、市民が気軽に使用できる。

### ○日立風流物

神峯神社大祭の余興としてくり出される山車で、高さ15m、幅2.12m（開いている場合6m）、奥行6.8m、重さ5tの雄大なもので、山車に人形芝居を配してあ

る。この山車は昭和34年国の重要民俗資料として指定をうけており、山車としては全国初の指定である。日立市民祭には毎年この山車がくり出される。

### ○河原子海岸

県北唯一の海水浴場で、市内はもとより県外からの沢山の海水浴客で砂浜が埋めつくされる。

### ○小貝浜キャンプ場

海岸のもっとも名勝地にあり、磯釣を楽しみながら若人達が夏の夜をすごす。この近くに海鶉の渡来地がある。

第2表 工業の推移

年次	事業所数	従業者数	製造品出荷額
昭42年	702	49,738人	25,210,007万円
43	735	50,295	32,717,293
44	749	50,114	37,386,703
45	798	51,730	44,629,034
46	781	49,956	41,083,982

第3表 財政規模の推移（当初予算）

年次	一般会計	特別会計
昭和44年度	4,794,549千円	1,463,458千円
45	5,744,614	1,922,052
46	7,387,930	2,045,358
47	8,538,405	2,315,676
48	10,073,327	3,820,427

## 統計ニュース

### ◇ 6月の主な行事 ◇

- 5～6日 関東甲信静ブロック統計主管課長会議
- 11～12日 商業実態基本調査市担当者会議
- 13日 第5次漁業センサス都道府県協議会
- 18～19日 第5次漁業センサス関係市町村準備調査事務打合せ会
- 20～21日 住宅統計調査関東甲信静ブロック会議
- 25～27日 消費実態調査市町村担当者会議

## ■ 2,500法人を対象に ■

### —— 茨城県法人企業統計調査の実施 ——

この6月に、茨城県法人企業統計調査が行なわれる。この調査は、県内で活動する営利法人会社を対象として、毎年実施されているもので、そのねらいは、法人企業の実態を、主として企業経理の側面から明らかにすることにある。

調査は、標本調査の方法で行なわれ、法人の総数約1万4,000のなかから、標本として約2,500法人を無作為抽出して、調査を依頼することになっている。調査票の発送と回収は、すべて郵送で行なわれる。

調査事項は、法人の決算事項である資産・負債および資本（貸借対照表）と損益の状況（損益計算書）を主としており、これに、人件費や固定資産の増減（設備投資）などが加わっている。

調査票は、産業別や資本金階級別に集計されるが、その結果から得られる法人企業の売上高、損益、付加価値、投資額等の計数は、県民所得推計の有力な基礎資料として利用される。また、県経済に占める法人企業のウェイトの高さから、この調査の結果は、県経済の動向を把握するうえで、独自の意味をもっているといえる。

一方、企業経営の側からみても、調査結果から得られる流動比率、固定比率、長期適合比率等々の財務営業比率は、経営の参考指標としての意義が大きい。

この調査は、前述のように、郵送の方式で行なわれる。したがって、調査票の回収率が、大きく調査の精度を左右することになるので、調査客体となった法人の協力が望まれている。